



特集

# 南魚沼市の医療を考える

## 「医療のまちづくり検討委員会」が始動

「南魚沼市医療のまちづくり検討委員会」

設置までの動き

市では、医療を取り巻く市のあり方について、専門分野の学識経験などを有する委員を選任し、市への提言を求め「南魚沼市医療のまちづくり検討委員会（以下、検討委員会）」を設置しました。市にとつてよりよい筋道を立てられるよう、活発に意見を交わしていただき、大きな力をお貸しいただきたいと考えています。

2025年をピークに2045年ころまでの超高齢・人口減少社会を見据え、全国的に医療再編が展開され、魚沼圏域でも医療再編が進められました。

に対応するのではなく、役割に合わせて基幹病院を紹介したり、基幹病院から他の医療機関を紹介する「地域全体で1つの病院」という医療の輪をつくる理念のもと、それぞれの医療機関が役割を担っています。

魚沼医療圏は、長い間、高度医療を行う病院はありませんでしたが、医療再編の中で平成27年6月、基幹病院が開院されました。これにより魚沼地域の医療再編が加速し、5年が経過しました。

基幹病院は、救命救急センターと高度医療を必要とする患者への医療を担っています。南魚沼市民病院（以下、市民病院）をはじめとする地域の医療機関は、初期救急や基幹病院で治療を受けた後、引き続きリハビリが必要な回復期・慢性期の患者の治療などを行うという役割を担っています。

しかし、国では今後の人口問題を見据えると、医療再編についてさらなる検討の余地があるとして、令和元年9月に「議論の活性化」を目的に、検証基準に該当した全国の公立・公的医療機関名の公表を行いました。

### 南魚沼市の医療の現状

市民の命を守り、市民がこの地域に生まれてよかったと、安心してここで生涯を終えることができる、地域の包括的な医療サービスを提供することが市の役目であると考えています。しかし、現在の状況では、市民への医療サービスの提供が難しくなると考

えられ、特に医師不足が、直接影響を及ぼし始めている

す。魚沼圏域は、魚沼基幹病院（以下、基幹病院）を中心として医療再編が行われましたが、まだ病棟の完全稼働には至っていません。市立病院などの経営も市の財政に大きな負担になっているのが現状です。

### 課題

1. 保健・医療・福祉のまちづくり
2. 市立病院群（診療所含む）の今後のあり方
3. 市内の医療・介護人材確保

1つの病院ですべての病状